

入山章栄著「世界の経営学者はいま何を考えているのか—知られざるビジネスの知のフロンティア—」
英治出版 2012年11月25日刊を読む

ソーシャル・キャピタルは子供の学力向上に役立つか

1. コールマンが提唱したソーシャル・キャピタルは、人間同士が親密な関係を築くことで得られる便益のことです。経営学者はこの考えを企業経営や組織運営の研究に応用してきたのです。
2. そしてこれまでの多くの研究で、人の結びつきが人や組織の活動の成果を高めることが実証されているのです。これに関する研究の数はあまりにも多く、本章ではとてもその全容はお話しできません。ここではあまたある研究の代表例として、ビッツバーグ大学のフリッツ・ビルとキャリー・リアーナが2009年に「アカデミー・オブ・マネジメント・ジャーナル」に発表した研究を紹介しましょう。
3. この研究のテーマは「教師のソーシャル・キャピタルは生徒の学力を上げることに役立つか」という興味深いものです。
4. この研究では、アメリカのある地域の199の公立小学校にいる教師1013人と4年生・5年生の生徒24187人が分析対象となりました。
5. ビルとリアーナは「子供の学力は、教師個人の能力(ヒューマン・キャピタル)だけでなく、その教師が同僚や上役とどれだけ親密な関係を築いているか(ソーシャル・キャピタル)にも影響を受けるのではないか」と考えたのです。
6. ビルとリアーナは、この1013人の教師を対象として、それぞれの教師が同僚の教師や上司(主に校長)とどのくらい親密に生徒や教育のことを話し合っているかについてデータを収集しました。そして、それらの「教師のソーシャル・キャピタル」が、彼ら・彼女らが担任している生徒の算数のテストの点数に与える影響を統計的に分析したのです。その結果は以下のようになりました。
7. 結果① まず教師の教育経験が豊富であったり、算数を教えるのが得意であるほど、受け持った生徒のテストの結果もよくなることがわかりました。
すなわち、教師個人の能力(ヒューマン・キャピタル)は生徒の成績に影響を与えるのです。
- 結果② この地域では各校で教師が同僚とグループを作って情報交換を行うのが慣例になっており、グループ内での教育の人間関係が親密であるほど、その教師が受け持つ生徒のテストの結果がよくなるということもわかりました。

すなわち、教師のあいだのソーシャル・キャピタルには生徒の成績を押し上げる効果があるという結果なのです

結果③ 教師が校長と親密な人間関係を築いているほど、その教師が担当している生徒のテストの結果がよくなることもわかりました

すなわち、教師と校長のあいだのソーシャル・キャピタルにも生徒の成績を押し上げる効果がある、ということです。

8. この結果からビルとリアーナは、子供の成績を上げるには、教師個人が優秀なだけでなく、その人が周囲とのソーシャル・キャピタルを築いていることも重要であることを実証的に示したのです。

P.155 ~ 158

<コメント>

気鋭の経営学者、入山章栄先生による世界標準の経営学の最先端の研究動向の紹介。経営学は何を目指し、どのように研究や教育がなされているのかとてもよくわかる。経営学を学ぶ日との絶好の水先案内。

— 2016年7月18日(月) 林 明夫記 —